

雑 報

人 事 の 異 動

(昭和58年7月～9月)

<発令年月日>	<異 動 事 項>	<所属・官職・氏名>
昭58. 9. 1	人口資質部資質科に配置換え	人口政策部推計科 厚生技官 伊藤達也

定 例 研 究 報 告 会 の 開 催

(昭和58年7月～9月)

<回>	<年月日>	<報 告 題 名>	<報 告 者>
10	昭58. 7. 6	昭和55年男女別労働力生命表について……………	石川 晃 技官
11	昭58. 7. 13	老人世帯の推計……………	岡崎 陽一 技官
	"	男女別にみた人口移動の動向と特徴——人口移動報告 年報による——……………	内野 澄子 技官 三田 房美 技官

資 料 の 刊 行

(昭和58年7月～9月)

<資料題名(発行年月日)>	<担 当 者>
○「実地調査報告資料」(昭58. 7. 20)	
昭和57年第8次出産力調査(結婚と出産力に関する全国調査) ——第Ⅱ報告書—— 独身青年層の結婚観と子供観……………	阿藤 誠 技官 高橋 重郷 技官 小島 宏 技官 大谷 憲司 技官 池ノ上正子 技官

昭和58年度実地調査の施行

本研究所においては、昭和58年度の実地調査として「結婚に関する人口学的調査」を実施した。その調査要綱を掲げると次のとおりである。

「結婚に関する人口学的調査」実施要綱

1 調査の目的

結婚は次世代の出発点であるため、将来の出産力に影響を与えるばかりでなく、次世代を担う子供達の資質にも影響を及ぼすため、社会全体にとって、かつ将来にわたって重要な課題である。しかしながら、これまでわが国において、夫婦を対象とした結婚に関する調査はあまり行われていない。また、わが国においては戦後における社会構造の急速な変化により、結婚形態は見合結婚より恋愛結婚をする夫婦が増え、その内容も大きく変化してきた。

そこで、今回の調査は、これらのことにかんがみ、結婚に関する事柄について、その実態を把握することを目的としている。そして、調査の結果として、結婚の現状を解明するとともに将来における人口に関する

施策の立案に役立つ基礎資料が得られることを期待するものである。

2 調査の地域

全国から6地域を選定し、各地域からさらに調査区を選定し、その調査区に居住するすべての該当夫婦世帯を対象とする。

3 調査の対象及び客体

本調査の対象は年齢が夫妻共に65歳未満の夫婦である。

(1) 調査地域

北海道 旭川市
宮城県 多賀城市
山梨県 身延町
愛知県 岡崎市
兵庫県 川西市
長崎県 福江市

(6地域)

(2) 調査客体

旭川市 1,600世帯
多賀城市 1,600 〃
身延町 1,600 〃
岡崎市 1,600 〃
川西市 1,600 〃
福江市 1,600 〃

(9,600世帯)

4 調査の時期

昭和58年9月1日現在の事実による。

5 調査方法

調査員を委嘱し、当該地域の調査員により被調査世帯に調査票を配布し、配票自計、密封方式により回収する。

6 調査事項

- (1) 夫妻の基本的属性
- (2) 結婚に関する基本事項
- (3) 夫妻の社会経済的属性
- (4) 夫妻の身体的属性
- (6) 夫妻の血縁に関する事項
- (6) 配偶者選択に関する事項
- (7) 夫妻の子供数、きょうだい数に関する事項

7 調査機関

この調査は、厚生省人口問題研究所が保健所の協力を得て実施。

8 結果の集計及び公表

集計は厚生省人口問題研究所で行い、集計後速かに公表する。

日本統計学会第51回大会

昭和58年度(第51回)の日本統計学会総会および研究報告会は、7月20日(水)から22日(木)までの3日間にわたり、広島大学(広島市中区東千田町)において開催された。

本年の研究報告会も6題に上る共通テーマを始め、盛り沢山のプログラムが編成されたが、そのうちの「高齢化社会についての統計的分析」は三つの分野(老人医療・老人病等の問題、年金・福祉等の問題、および人口・雇用・再就職等の問題)に分けられ、多数の報告と活発な討論が行なわれた。とくに、<人口・雇用・再就職等の問題>を扱った部会には、本人口問題研究所の岡崎陽一所長がオーガナイズしたものであり、人口学からみた高齢化の分析を軸とした報告部会として有意義であった。予定された報告は次の8題であったが、このうち、黒田俊夫教授の報告は都合(病気欠席)で行なわれなかった。

人口学からみた高齢化の分析……………岡崎 陽一(人口問題研)